

2019年8月1日

## ATR 顔表情データベース

ATR 顔画像データベース (DB99) のうち利用が許可された画像を、使用許諾いたします。  
顔表情や視線などに関わる実験刺激などにご利用ください。

以下に、今回ご利用いただけるデータの概要をお知らせいたします。

### 1 データベース内容

<モデル>

- ・ 男性 6 名 - M01, M02, M05, M06, M09, M10 (ただし、M01 は正面顔データのみ)
- ・ 女性 4(+1) 名 - F03, F10, F13, F16 + 広報画像用 F07

CD内にはモデルごとにフォルダを作成しております。フォルダ内には、以下のような標記で画像が入っている。

ファイル名の標記 (例) : F03-f45-e00-S0-1. bmp

顔モデル : F 0 3

顔向き : 45 度

視線 : 0 度

表情 : 喜び (開口)

写真系列番号 : 1

各モデルフォルダ内には、「front」、「face」、「gaze」というフォルダがあり、それぞれ、正面顔データ、顔角度変化データ、視線変化データが入っている。

詳細は以下のとおり。

#### 1) /front/ --正面顔データ

10 表情 - 10 表情各 3 枚 (ただし真顔は 1 枚のみ. 一人あたり 28 枚 +  $\alpha$ )

- |           |      |
|-----------|------|
| ① 真顔      | [NE] |
| ② 喜び (開口) | [S0] |
| ③ 喜び (閉口) | [SC] |
| ④ 悲しみ     | [SD] |
| ⑤ 驚き      | [SP] |
| ⑥ 怒り (開口) | [A0] |

- ⑦ 怒り (閉口) [AC]
- ⑧ 嫌悪 [DI]
- ⑨ 軽蔑 [CT]
- ⑩ 恐れ [FE]

2) /face/ --顔角度変化データ  
6 表情 (AC/AO/SD/SO/SC/NE)  
3 顔変化角度 (15/30/45)

3) /gaze/ --視線方向変化データ  
6 表情 (AC/AO/SD/SO/SC/NE)  
3 視線変化角度 (15/30/45)

画像は、この撮影データのうちピークとなる表情を切り取り編集した画像データとなる。

## 2 表情撮影状況

画像は、以下の撮影データのうちピークとなる表情を切り取り編集した画像データとなる。

### 顔表情モデル

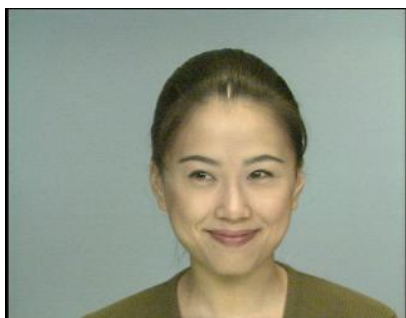
オーディションで選定された、20代後半から30代前半男女。いずれも、顔に目立つほくろやひげ、メガネなどの着用はなかった。また、当日の注意事項として、化粧はナチュラルメイクの域を出ていないこと、口ひげ顎鬚がないこと、肩より上にアクセサリはつけないこと、眼鏡も撮影中ははずしておくこと、首が隠れるような服は着用しないこと、髪の毛が長い場合はピン等で髪を上げ首から上、額まで、顔の前面がすべて露出されていることなどをあらかじめモデルに伝えた。

### 視線変化撮影

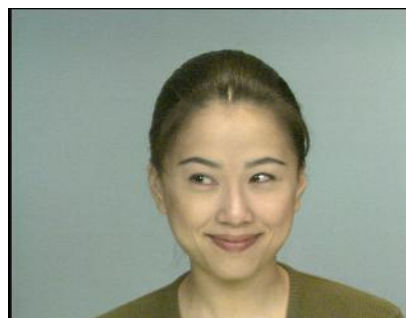
正面顔の撮影後、視線の変化した4カテゴリー6種の以下のような表情・視線角度変化の撮影を行った。

(表情：①真顔 ②喜び開 ③喜び閉 ④悲しみ ⑤怒り開 ⑥怒り閉)

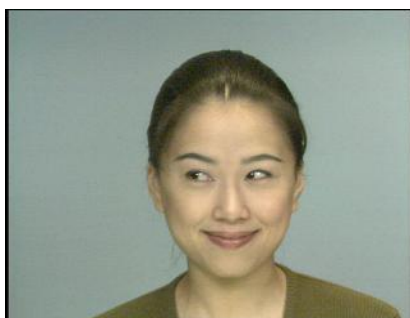
- ① 視線 15°
- ② 視線 30°
- ③ 視線 45°



口を閉じた笑顔+視線 15°



口を閉じた笑顔+視線 30°



口を閉じた笑顔+視線 45度

——ご注意：本説明書内での画像無許可転載、利用はご遠慮ください。

図1：視線変化を伴うDB99データの例

### 顔向き変化撮影

撮影された表情は視線変化と同じ次のような表情・頭部変化角度の撮影を行った。

(表情：①真顔 ②喜び開 ③喜び閉 ④悲しみ ⑥怒り開 ⑦怒り閉)。

① 顔向き 15°

② 顔向き 30°

③ 顔向き 45°



口を閉じた笑顔+顔向き 15°



口を閉じた笑顔+顔向き 45度



口を閉じた笑顔+顔向き 30°

——ご注意：本説明書内での画像無許可転載、利用はご遠慮ください。

図 2：顔向き変化を伴う DB99 データの例

### 3 心理評定実験

表情認知に関する様々な実験場面に活用するため、それぞれの画像を呈示したとき、それがどのような感情をどの程度表出した表情だと受け止められるのか、確認しておく必要がある。そこで全ての画像に対する表情評価実験を行った。

#### 刺激

真顔を 1 枚、表情顔については 3 枚ずつの画像を刺激として用いた。

#### 実験方法

<評定者>

大学生 27 名

<評定手続>

コンピュータ画面上に顔画像がランダムに呈示され、評定者はその顔画像を見て、その顔が表していると思われる感情の強さを評定した。評定する感情は「幸福」「悲しみ」「驚き」「怒り」「嫌悪」「恐れ」「軽蔑」7 種類であり、それぞれについて 1（全く表れてない）～7（強く表れている）の 7 段階で評定した。

#### 結果

評定の結果、各表情に対する感情強度の表出度が明らかになった。表情ごとに評定結果の平均値をエクセルファイルとして製品に含める。